

評論文における「読み」を深める授業 —学習実態に応じた授業展開の工夫（学習実態 基礎）—

- 1 科目名 現代文B
- 2 単元名 評論2
- 3 教材名 今井むつみ「言葉と世界」 ワークシート2種類
- 4 単元の内容

単元の目標
と評価規準
・評価方法

①単元の目標

- ア 文章を批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしようとする。
(関心・意欲・態度)
- イ 文章を批評することを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
(読む能力)
- ウ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、自分の表現や推敲に役立てること。
(知識・理解)

②単元の目標設定の理由

- ・本校の生徒は学習に対する苦手意識が強く、特に評論文になると「何が言いたいのか分からない。」と言って、学習自体を放棄してしまうことがある。そのような中で、これまでは本文の内容理解に重点を置いた授業を展開してきた。しかし、生徒の様子を観察すると、内容理解に関しては概ね良好な様子が見られてきたが、評論文の内容を一般化し、内容理解を通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりしている様子が少ないことが分かった。文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることは、生徒の人間観、社会観、自然観などを確立するために大切なことである。従って、それらのことを深めたり、広げたりすることができれば、自分自身の生き方をより良くすることにつながると考えた。
- ・本教材は、問題提起から始まり、問題提起で終わる評論文である。その構造を利用することで、本文の内容だけではなく、実社会や実体験とつなげて「言葉と世界」についてより身近に考えることができる教材であると考えた。そのため、生徒が教材に興味をもち、筆者の主張に触れることで、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする能力を育成することに主眼を置いた。また、文章を読むことは、単に文章から一方的に知識や情報を受け取るという受け身の活動ではないため、他者の意見に触れて、自分の意見をより深めたり、考えたりできるように目標を設定した。
- ・本クラスは、学習に苦手意識をもっている生徒が多く、積極的に発言や記述をする生徒は一部である。また、他者と意見を交流することが苦手な生徒も非常に多く、生徒同士の話し合いが成立しにくいのが実情である。しかし、問題の答えを自力で考えることができるようなものであれば、静かに学習に取り組み、各個人で問題演習ができる。学習実態を「基礎」と設定したが、集団の特質に応じた授業を展開すれば、生徒が力を十分に発揮できるクラスである。

③中心となる学習活動

- ・本文の内容読解は、主に全体で行う。その際に、発問を多くすることで、教師と生徒が双方向対話的に授業を進めていくことになる。本文中の根拠を明確にして発言させることで、発問に答えていくうちに自然と内容読解ができる一方で、双方向対話的に授業が進んでいくことで私語につながりやすいという点があるため留意が必要である。
- ・内容を一般化し、言葉や社会、人間について自分の考えを深めたり発展させたりするために授業内に問題演習を取り入れる。問題演習で考える内容は、本文の内容と関連させて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにできるようなものとした。

④言語活動の工夫

- ・独自のワークシートに本文中の語句の意味を国語辞書で調べてまとめさせる。本校生徒は電子辞書を使用していないため、紙媒体の国語辞書で調べさせる。語彙力を育成することと内容読解をするためのヒントとすることを目標とする。また漢字練習のワークシートを利用して、基礎的な漢字の読み書きができるようにする。どちらについても現代文Bの指導事項オに「語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにする」とあるため、授業内で効果的に

指導する必要がある。しかし、漢字の読み書きを含めた語彙を豊かにすることに関しては、授業内だけで補うことは困難であるため、自学自習できるようなワークシートを取り入れている。

- 本単元では、授業内に積極的に問題演習を取り入れている。問題演習では、教師に説明されたことを用いて問題を解き、授業内容の理解を促進する目的をもっている。また、出題する問題の難易度は低めに設定し、正解は一つであるが、正解へ導くために多様な考え方ができるような問題を選んで出題している。評論文への苦手意識が強い生徒が多くいるクラスで、問題に取り組む楽しさを通じて、苦手意識を少なくしようとする意図があり、正解を導き出すための多様な考え方に触れることで、自分の考えを深めたり、発展させたりできるように配慮している。自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにするということは、決して問題の正解を求めるだけに留まることではないため、たとえ正解を導くことができなかった考え方でも、どのように考えてその答えを導き、どこを修正すれば正解へ導くことができたのか考える時間は有効である。そのような活動を通して、苦手意識をもっている生徒は考え方や学び方を学んでいき、読む能力が向上すると考える。

⑤評価

	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応
関心・意欲・態度	① 本文に興味をもち、読解をしようとしている。 ② 問題演習に積極的に取り組み、正解を導き出そうとしている。	観察（机間指導） 点検（発言・ワークシートの提出）	・目標達成のための項目を具体的に生徒に伝える。 ・問題演習に際して、ヒントを与えて考えさせる。
読む能力	① 根拠を明確にして、本文の内容を理解している。 ② 筆者の主張を理解し、学習を通して、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする。	観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）	・本文の根拠を指摘し、筆者の考えを理解するように助言する。 ・他の生徒の発言を参考にするように助言する。
知識・理解	① 本文中で使用されている基本的な漢字の読み書きができ、語句の意味や表現を理解している。	観察（机間指導） 点検（発言・記述内容・ワークシートの提出） 定期考査	・辞書で調べさせたり、他の生徒に教えてもらったりして理解するように助言する。

成果と課題

- ① 評論文に苦手意識をもつ生徒が非常に多くいるクラスであるが、演習問題の難易度を低く設定したことで、多くの生徒が積極的に問題演習に取り組んでいた。
- ② このクラスの学習実態は、他者と意見を交流することが困難なクラスであったため、グループ学習ではなく、各自で問題演習に取り組む授業スタイルを取り入れたが、実態に応じた授業スタイルを採用することで、生徒は安心して学習できていた。
- ③ 比較的難易度の低い演習問題に取り組ませたが、徐々に考え方や学び方を定着させつつ、演習問題の難易度を高度なものへと推移させていきたいと感じた。
- ④ 本単元を授業で取り扱うにあたり、教科書の本文だけでなく、筆者が執筆した原文（出典）でもある『ことばと思考』を詳しく読んで教材研究を行った。その成果として、内容読解及び生徒の考えを深めたり広げたりするために、多様な発問をすることができた。また、授業者自身が筆者の考えを深く理解することにより、多様な考え方や疑問を持つ多くの生徒に筆者の考えを教えることができた。評論文に限らず、小説や随想、古文や漢文などにわたる多くの教材を授業で取り扱うに当たり、原文（出典）や関連文献や参考文献を多く読み込んで教材研究を行い、その上で授業研究をしていく大切さを知ることができた。

アドバイス

及び留意点

- ① 学習が苦手な生徒は、そもそも考え方や学び方を知らない場合が多い。そのため、授業を通して、本文の内容理解だけではなく、問題に対する考え方や学び方を指導することは非常に大切であると考えられる。しかし、それを指導するためには、時間がかかるのが現状である。スモール・ステップを原則として、学習のレベルを上げて、集団として学ぶ雰囲気を作ることができれば、次第に自分たちで考え、教え合うことができるクラスになる。
- ② 教材研究において、原文（出典）を読むことは、非常に有効である。特に、評論文においては、筆者の主張を読み取るうえで、原文（出典）には様々なヒントが隠されている。評論文が苦手な理由として「何が言いたいのか分からない。」という生徒が多いため、生徒が理解しやすいような具体例や身近な体験と結び付けて理解させるためには、授業者の豊富な知識と情報、それらを結び付ける思考のネットワークが必要であると考えられる。

小中学校との系統性	① (中学・1年・C 読むこと) オ 文章に表れているものの見方や考え方をとらえ、自分のものの見方や考え方を広げること。 ② (中学・2年・C 読むこと) エ 文章に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをもつこと。 ③ (中学・3年・C 読むこと) エ 文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつこと。
-----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○本文全体の構成と概略を把握し、語句の意味調べをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・本文1行目について考える。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・「窓」という言葉に着目して考えさせる。 ・本文を意味段落に分け、教師による範読を聞く。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の難読漢字には読み仮名を付けるように指導する。 ・本文中の語句の意味調べをする。【オ】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・独自のワークシートと紙媒体の国語辞書を配付して調べさせる。 ・各語句の意味は、本文中での意味を調べるように指導する。 	本文の内容に興味・関心をもち、考えることができる。【関】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言) ↓ 本文中の語句の意味調べをし、語句の意味や用法を的確に理解している。【知】 ↓ 観察(机間指導) 点検(ワークシートの提出) 定期考査	机間指導の際に、生徒の様子を観察し、個別に指導をする。 ↓ 語句の意味調べが完成しているかどうか確認する。
2	○第1段落を読解し、「言葉を通して世界を見る」ことについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1段落を読み、読解を行う。【ア】 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・言い換えと対比構造に注目させる。 ・原文(出典)から多様な具体例を提示し、理解を促進させる。 ①日本語と英語の「信号の青」に関する認識の違いを紹介する。 ②日本語とオランダ語の「信号の黄色」に関する認識の違いを紹介する。 ・演習問題に取り組み、私たちは日本語による世界の切り分け方が当然のものだと思込んでいることを理解する。【ア・ウ】 問 「緑」や「左」という言葉をもたない言語があることを想像するのが容易でない理由を答えなさい。 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・本文中の根拠となる箇所を探して、文章化するように指導する。 ・発展問題に取り組み、「言葉による世界の切り分け方」が多様にあることを理解する。【ア・ウ】 問 日本語で色の基礎名となるものを11種類答えなさい。 *留意点 <ul style="list-style-type: none"> ・問題は原文(出典)を参考に出題する。 ・授業者が補足説明をしながら、演習問題に取り組みさせる。 	教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。【関】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言) ↓ 本文中の語句の意味や漢字の読みが理解でき、筆者の主張を根拠を明確にして、読み取ることができる。【知】【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言・記述内容) ↓ 自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言)	指名発言をさせる中で、細かくヒントを出していき、本文から根拠を抜き出させる。他の生徒の発言を参考にするように助言する。 ↓ 机間指導にて記述内容を確認する。

<p>3</p>	<p>○第2段落 を読解し、 「言葉に よって世 界を切り 分ける」こ とについ て考える。</p>	<p>・第2段落を読み、読解を行う。 【ア】 *留意点 ・具体例を通して、筆者の主張を一般化する ように指導する。 ・原文(出典)から具体例を提示し、理解を 促進させる。 ①日本語と英語での「走る」という動詞の 使い分けを紹介する。</p> <p>・演習問題に取り組み、言葉は世界をカテ ゴリーに分け、整理していることを理解 する。 【ア・ウ】 問 次の「投げる」「○○高校」「バナ ナ」「アンパンマン」の4語は『カ テゴリー』と『固有名詞』のどちら に所属するか答えなさい。</p> <p>*留意点 ・正解が導き出される理由と、それを導き出 すための本文中の根拠となる箇所を指摘 させる。 ・誤った解答をしている生徒がいた場合は、 そのように考えた理由を発言させ、どの部 分を修正すれば正解を導き出すことがで きるのかを全体で考えさせ、考え方を学ば せる。</p>	<p>教材に興味をもち、 自分の考えをもって 積極的に学習に取り 組もうとしている。 【関】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言)</p> <p>本文中の語句の意味 や漢字の読みが理解 でき、筆者の主張を 根拠を明確にして、 読み取ることができ る。 【知】 【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言・記述内 容)</p> <p>自分自身のものの見 方、感じ方、考え方 を豊かにすることが できる。 【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言)</p>	<p>指名発言をさせる 中で、細かくヒン トを出していき、 本文から根拠を抜 き出させる。 他の生徒の発言を 参考にするように 助言する。 ↓ 机間指導にて記述 内容を確認する。</p>
<p>4</p>	<p>○第3段落 を読解し、 言葉によ る空間の 位置関係 の表現の 仕方を読 み取る。</p>	<p>・第3段落を読み、読解を行う。 【ア】 *留意点 ・筆者の提示する具体例を通して、内容理解 するように指導する。 ・言語化されている内容を図示して理解する ように指導する。</p> <p>・演習問題に取り組み、空間の位置関係の 表現方法も言語によって異なることを 理解する。 【ア・ウ】 問 「ボールが木の前にある。」と言わ れた時の日本語とハウザ語での見 方を図示しなさい。</p> <p>*留意点 ・本文中の根拠となる箇所を指摘させ、まず 日本語について図示させ、答え合わせを行 った後、ハウザ語を図示させる。 ・授業者が補足説明をしながら、演習問題に 取り組ませる。 ・代表者に発表させ、正解かどうかを全体で 検討する。</p>	<p>教材に興味をもち、 自分の考えをもって 積極的に学習に取り 組もうとしている。 【関】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言)</p> <p>本文中の語句の意味 や漢字の読みが理解 でき、筆者の主張を 根拠を明確にして、 読み取ることができ る。 【知】 【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言・記述内 容)</p> <p>自分自身のものの見 方、感じ方、考え方 を豊かにすることが できる。 【読】 ↓ 観察(机間指導) 点検(発言)</p>	<p>指名発言をさせる 中で、細かくヒン トを出していき、 本文から根拠を抜 き出させる。 他の生徒の発言を 参考にするように 助言する。 ↓ 机間指導にて記述 内容を確認する。</p>
<p>5 (本時)</p>	<p>○第4段落 を読み、筆 者の主張 について 考える。</p>	<p>・第4段落を読み、筆者の主張を考える。 【ア・ウ】 *留意点 ・第1段落の問題提起に立ち戻り、筆者の主 張について考えるように指導する。 ・前時までで紹介した具体例を利用して理解</p>	<p>教材に興味をもち、 自分の考えをもって 積極的に学習に取り 組もうとしている。 【関】 ↓</p>	<p>指名発言をさせる 中で、細かくヒン トを出していく。 他の生徒の発言を 参考にするように 助言する。</p>

	<p>を促進させる。</p> <p>①色の認識の仕方の違いについて</p> <p>②空間の認識の仕方の違いについて</p> <p>・演習問題に取り組み、筆者の主張を考える。 【ウ】 問 次の言葉だけで状況を図示してみよう。日本語「ボールは木の前にある。」また、前後左右という言葉をもたない言語では同じ状況をどのように説明するのだろうか。</p> <p>*留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の演習問題と関連させながら取り組ませる。 ・授業者が補足説明をしながら、演習問題に取り組ませる。 ・代表者に発表させ、正解かどうかを全体で検討する。 	<p>観察（机間指導） 点検（発言）</p> <p>本文中の語句の意味や漢字の読みを理解し、筆者の主張を根拠を明確にして、考えることができる。 【知】【読】 ↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言・記述内容）</p> <p>自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにすることができる。 【読】 ↓</p> <p>観察（机間指導） 点検（発言）</p>	<p>前時までの記述内容を確認するように助言する。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------

6 第5時の学習指導案

本時の位置	5 時間目（全5時間）		
本時の学習目標	<p>ア 教材に興味をもち、自分の考えをもって積極的に学習に取り組もうとしている。 （関心・意欲・態度）</p> <p>イ 本文の読解を通して、筆者の主張を理解し、自分自身のものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 （読む能力）</p>		
事前の準備	<p>①原文（出典）である『ことばと思考』を読み、言語の違いによる色の認識の仕方の違いと空間の認識の仕方の違いについて知る。</p> <p>②本文と関連のある具体例を考える。</p>		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 8分	□前時までの復習と本時の目標の確認	<p>①前時までの内容をノートで確認する。</p> <p>②本時の目標を理解し、第4段落の音読をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの内容に関する発問をし、本時の目標の確認につなげる。 ・本時の目標を板書し、第4段落を代表生徒に音読させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>本時の目標：評論を振り返ることで筆者の伝えたいことを考える。</p> </div>			
展開 ① 12分	□筆者の主張を考える。	<p>③第4段落「私たちが『見ている』世界は言葉が切り分ける世界そのものなのだろうか。」について考える。</p> <p>④前時までに学習した具体例を基に筆者の伝えたいことを考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者の主張を前時までに学習したことを基に考えさせる。 ・言語の違いによる色の認識の仕方の違いと空間の認識の仕方の違いについて確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>目標Aに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 前時までに学習した内容を振り返り、自分の考えをもって学習している。</p> <p>[方法] 点検（発言、記述の確認） [状況Cの生徒への手立て]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・確認すべき内容を示す。また、他者の意見を参考にして、自分の考えをもつように助言する。 </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>目標イに対する評価規準と評価方法</p> <p>[規準] 前時までに学習した内容を改めて確認することを通して、筆者の伝えたいことを理解し、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。</p> </div>

			<p>[方法] 点検 (発言、記述の確認) [状況Cの生徒への手立て] ・ヒントを与えて考えさせる。</p>
展開② 23分	<p>□筆者の主張を考える。</p>	<p>⑤第4段落「言葉が切り分ける世界は、私たちが『見ている』世界とは別のものなのだろうか。」について考える。</p> <p>⑥各個人で演習問題に取り組む。(4分)</p> <p>⑦代表者が解答例を板書する。(10分)</p> <p>⑧本文の内容と関連させて筆者の伝えたいことをまとめる。(5分)</p>	<p>・新たな具体例を示して筆者の主張を考えさせる。 ・演習問題を出題する。 ①日本語の「ボールは木の前にある。」状況を図示しよう。 ②同じ状況をグーグ・イミディル語(前後左右という言葉をもたない)ではどのように説明するのだろうか。 ③グーグ・イミディル語の「ボールは木の南にある。」状況を図示しよう。 ・机間指導の中で発表者を指名する。</p> <p>目標Aに対する評価規準と評価方法 [規準] 自分の考えをもって、演習問題に取り組んでいる。 [方法] 観察(机間指導) 点検(発言・記述内容) [状況Cの生徒への手立て] ・他者の意見を参考に、自分の考えをもつように助言する。</p> <p>目標イに対する評価規準と評価方法 [規準] 他者の意見に触れて、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしている。 [方法] 観察(机間指導) 点検(発言) [状況Cの生徒への手立て] ・ヒントを与えて考えさせる。</p>
まとめ 7分	<p>□本時のまとめと本時の振り返りをする。</p>	<p>⑨本時のまとめを記述する。</p>	<p>・授業者による本時のまとめと振り返りをする。</p>